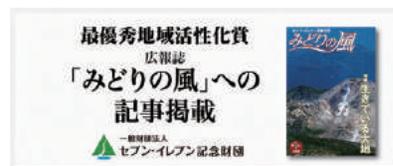


農業廃棄物の有効利用法 特に規格外かぼちゃと蔓の付加価値対策

長崎県立諫早農業高等学校

〒 854-0043 長崎県諫早市立石町 1003

☎ 0957-22-0050 <http://www.news.ed.jp/isahaya-ah/>



長崎県はかぼちゃの生産量 8,160 トン、全国第 4 位を誇ります。しかし、その裏側では規格外品として処分されているものが全体の約 20% に上ります。また、かぼちゃを収穫した後に畑一面に残される蔓や葉は、農家にとってはやっかいな存在で、焼却処分されています。そこで私達はかぼちゃの果肉から加工品、葉や蔓から和紙の製造技術を確認し、事業家レベルまで達成しました。この取り組みは全く廃棄物を生じないゼロ・エミッションとなります。



審査コメント

長崎県のかぼちゃの規格外品を利用し低炭素な地域活性化につながる活動を評価しました。

長崎県はかぼちゃ生産量が全国 4 位で、そのうち約 2 割が規格外品として処分されています。また収穫後の畑を覆い尽くす蔓や葉を焼却処分しているところに目を付け、地域と連携して、かぼちゃの廃棄物「ゼロ」を目指すため、規定外かぼちゃは特産品月餅の生産会社と共同で中華菓子「つきひめ」を商品開発し、蔓や葉などの農業廃棄物は和紙として有効利用を考えた地元産業・農業の地域活性化に貢献している活動です。

一般財団法人セブン・イレブン記念財団 地域活動支援事業 マネージャー 小野 弘人

受賞者コメント

私達はかぼちゃ生産者の方々の悩みを解消するためにこの活動を始めました。工夫したことはかぼちゃの蔓や葉から繊維を抽出するために、私達オリジナルの方法を見出すことができたことです。また、規格外かぼちゃから新しい加工品を開発し、商品化に至るまで様々な苦労があったことは今でも忘れません。

今大会は、環境問題に対して様々な活動を行っていらっしゃる方々の取り組みを知る上で貴重な体験となりました。貴大会事務局の関係者にお礼申し上げます。最後になりましたが、これまでご指導・ご協力していただいた生産農家、和紙工房、そして、顧問の先生方の協力があって今回の受賞ができたと思います。ありがとうございました。

長崎県立諫早農業高等学校 食品科学科 3 年 佐々木 菜摘

モトスミ・ブレーメン通り商店街のエコ調査隊

モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合 & グリーンコンシューマーグループかわさき

〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2

☎044-422-3626 (モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合)

☎044-813-1313 (川崎市センター窓口)

最優秀エコライフ活動賞

LIXIL HPでの
紹介と広報支援LIXIL
LIFE IN GOOD LIVING

モトスミ・ブレーメン通り商店街とグリーンコンシューマーグループかわさきが協働して、買い物を通して行える環境配慮行動を普及させる取り組みです。各商店が自店で出来る取り組みを登録し、店頭でポスターとして掲げ実施しています。実施内容を、市内の小学生が、年に1回調査をします。現在、約90店舗が運動に参加しています。年々参加者も増加するとともに、エコ調査隊に参加することで小学生の意識も高くなっていきます。



審査コメント

モトスミ・ブレーメン商店街は、ドイツ・ブレーメン市ロイドパサージュとの友好を機に、早くから環境に取り組んでこられました。「1店1エコ運動」加盟店は、活動内容を掲示することで環境への姿勢を表明・約束し、同時にそれが購入者へのアピールとなっています。調査隊の質問に丁寧に答え、楽しく会話することは活動の励みとなり、調査する小学生にとっては環境活動の幅広さを知るだけでなく、地域について深く学ぶ機会です。子どもたちが学び、事業主の意識が向上し、商店街の活性につながる実践的で持続的な活動であることを高く評価しました。

商店街事務局と「グリーンコンシューマーグループかわさき」が信頼しあいながら活動をしっかり支えられており、他地域へと広がっている発展性も素晴らしいです。住まいに関わる企業として、このような日々の暮らしと直結したエコライフ活動を応援させていただきます。

株式会社 LIXIL Public Affairs 部門 広報部 コーポレートレスポンスビリティ推進グループ 主幹 伊藤 弓子

受賞者コメント

参加されていた皆さんの環境に対する意識の高さには驚嘆いたしました。私たちの取り組みはCO₂削減に対しては本当に小さな取り組みかも知れませんが、商店街として取り組むことによって組合員の環境に対しての重要性、また小学校の子どもたちが地球環境の大切さを認識してもらいたい機会になっています。これからもこの運動を継続してゆきたいと思っております。

商店街と消費者の協働は、どこでも実現可能です。多くの地域に広がると嬉しく思います。

生体鉱物（MAP）を活用した革新的な堤防維持管理技術の開発

京都府立桂高等学校 TAFS「地球を守る新技術の開発」研究班

〒615-8102 京都府京都市西京区川島松の木本町 27

☎ 075-391-2151 <http://www1.kyoto-be.ne.jp/katsura-hs/>

50年に一度の降雨やゲリラ豪雨等異常気象が続く中、日本の河川管理の重要性が増しています。日本1級河川の河川管理費は、1000億円ですが、そのうち40%は除草に関わる費用です。本プロジェクトは、この除草に関わる河川管理費を、下水処理場で汚泥からリン・アンモニアを取り除く時に結晶化する生体鉱物MAPを活用することで、緑化環境に影響することなく、大幅に削減する革新的な取り組みです。



審査コメント

京都府立桂高等学校「地球を守る新技術の開発」研究班の、昨今のゲリラ豪雨や異常気象によって重要性が増している河川管理の除草作業に「生体鉱物MAP」を活用することによって、緑化環境に影響を与えることなく大幅に除草費用を削減する革新的な取り組みに対して、将来の社会貢献度が高いこととニュースキャスター風の発表がチャージングだったことを評価しました。

ユニ・チャーム株式会社 CSR本部 環境推進グループ マネージャー 石村 令子

受賞者コメント

この度はこのような栄誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。本研究班では、MAPによる河川環境の改善に向け、日々研究活動に取り組んでいます。発表したプレゼンテーションは、内容をわかりやすく、かつ会場の皆さんに笑ってもらうことを意識して練習しました。これらが、このような形で評価されたことに、班員一同で喜んでます。これからもより一層研究活動に励み、班員一丸となって持続可能な開発を目指して頑張ります。

緑のリサイクルモデル・「刈草堆肥」でストップ温暖化

緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチーム

〒771-4305 徳島県勝浦郡勝浦町大字久国屋原1
 徳島県立小松島西高等学校勝浦校(徳島県立新野高等学校)
 ☎0885-42-2526



近年、日本各地で未曾有の自然災害が発生しています。その原因の一つが地球温暖化です。そこで、河川や道路等の維持管理で発生する「刈草」が植物廃材として焼却処分され温暖化の原因であるCO₂として排出されていることに着目し、「刈草」を有効活用するリサイクルの先導的な事例を生み出し、CO₂の排出削減と共にその活用方法を家庭や地域・学校に提供し資源循環型・脱炭素社会の構築に向けた啓発実践活動に取り組んでいます。



審査コメント

ニトリ最優秀夢・未来賞は、環境問題への取り組みを通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来を、みんなで築いていきたいという想いでネーミングをいたしました。

「緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクトチーム」の取り組みは、「刈草」というどこにでも存在するものに着目し、高校生のみならずが主体となって堆肥の開発を行い、実用販売していくというチャレンジ精神に溢れたものでした。また、徳島県において糖尿病対策が必要であるという問題点を発見し、「使う人」の立場に合わせてアレンジを加え広く普及させる行動力など、わが社の取り組んでいるビジネスにも通じるものがあり、より良い未来へつながっていく可能性を大きく感じさせる素晴らしい内容であったと思います。

若いエネルギーによって創り出されたこの取り組みが、徳島から全国へ、そして世界へより発展的に継続していくことを期待しております。

株式会社ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之

受賞者コメント

私たちは、植物廃材として焼却処分されていた「刈草」を有効活用した資源循環型肥料「もったいない2号」を開発しました。そして、脱炭素社会の構築に向けた地球にやさしい暮らしを提言しています。活動は今年で7年目になります。

この度「ニトリ最優秀夢・未来賞」を受賞し、とても思い出に残る活動になりました。市民の方から「昨年もらったアサガオで今年も緑のカーテンをしています」と言われたことがとても嬉しく印象に残っています。今後も「未来の地球のために私たちができること」を活動テーマに地球温暖化防止活動に取り組んでいきます。

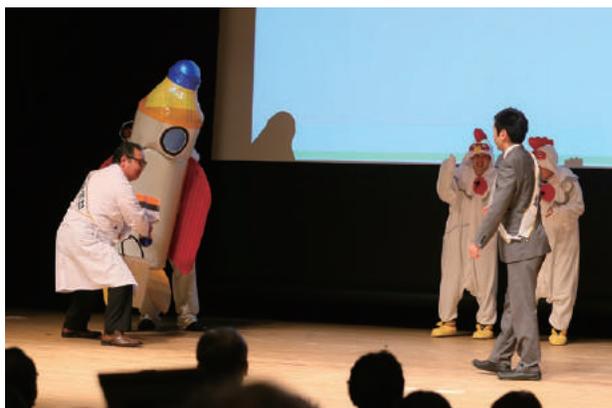
「鶏も人も幸せ！」持続可能な低炭素養鶏業の薦め

倉持産業株式会社

〒303-0044 茨城県常総市菅生町 683-1

☎0297-27-1131 <http://www.kuramochisangyo.jp/>

当社の環境への取り組みは「過去からの恩返し」の気持ちから始まりました。近隣への悪臭や排水、廃棄物処理等真摯に取り組みました。たまごの出荷量の60%は契約農場から仕入れています。自社で品質管理室(3名)環境改善提案部(2名)を設け、契約農家の品質管理、飼育環境の指導、良質な餌や薬品、環境省エネ機器の販売をしています。各種コンクール、業界誌、省エネTV番組等で成功事例を紹介し、先進養鶏を推進します。



審査コメント

毎日120万個のたまごを生産する倉持産業(株)様に本年度のウジエスーパー最優秀エコーガニック賞を贈呈させていただきます。

御社の二酸化炭素削減は以下の5点の施策で実現されております。①ハイブリッドカー20台 ②太陽光パネル設置 ③エアコン省エネコイル19台 ④電磁波の少ないLEDに交換 ⑤ロケットにも使う遮熱塗装。15年前に品質管理室、7年前に省エネ・環境改善提案部を設置し、一貫して契約農家様と手を組んで地域低炭素社会の構築に御努力されて来られました。その一途な姿勢はまさにエコと食の融合を意味するエコーガニックに最も相応しい事業であります。

食は人を良くすると書きます。ストレスのない環境で産み落とされたたまごによって、全国の食卓に笑顔の花が咲き続けることを心からお祈りいたします。この度は誠にありがとうございました。

株式会社ウジエスーパー 常務取締役 吉田 芳弘

受賞者コメント

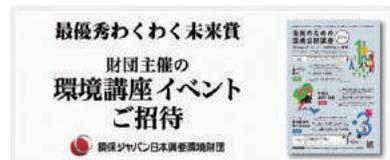
倉持産業(株)は養鶏と鶏卵、飼料の販売をする会社です。長年の当社の環境への思いと取り組みを、紹介したいと低炭素杯に応募しました。今回2度目の挑戦で、ファイナリストに選ばれ、まさかの最優秀エコーガニック賞を受賞、有難うございました。パワーポイントや寸劇は、不安で一杯でした。茨城県の環境関係の方々の暖かいご指導と、社員の協力で何とか完成。当日の各団体の発表は素晴らしく、レベルの高さに圧倒されました。私達の環境への熱い思いを、もっと多くの人に広げたい、子供達の未来の為に。低炭素杯スタッフの皆様ご苦労様でした。

「あまのじゃくなエコ活動」と「ぷらすαのエコ活動」

エクセラン高等学校 環境科学コース

〒390-0221 長野県松本市里山辺 4202

☎ 0263-32-3705 <http://www.excellent.ed.jp>



今「エコ」「省エネ」「環境にやさしい」という言葉があふれています。でも「それって本当にエコなの?」という疑問を持ち、いろいろな方向から調べ考え活動を始め「天邪鬼エコ活動」(マイバッグやエコキャップや太陽光発電)、これまで継続して行ってきたエコ活動にあと一つ低炭素社会実現のための要素を加える「+αエコ活動」(植物の苗ポットを生分解性プラスチックに変更、竹の利用を考え実施する)を行っています。



審査コメント

損保ジャパン日本興亜環境財団では「わくわく未来賞」という名称で、未来に繋がるような取り組みを応援したいと考えています。エクセラン高校の「あまのじゃくなエコ活動」と「ぷらすαのエコ活動」では、巷にあふれる「エコ」、「省エネ」、「環境にやさしい」という活動は本当にエコなのか?、まず根本に立ち返って検証をしてみようというもの。その批判精神は、つついネット情報を鵜呑みにして「環境によさそうだ」などと考えてしまう我々大人の眼を開かせてくれました。

溢れる情報に踊らされず、まず自分の頭で考えてみることを、そして本当に正しいことを選択して一生懸命取り組むこと。この姿勢はまさに明るい未来につながると思います。エクセラン高校の今後の活動から何が生まれるのか、本当にわくわくします。

公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団 事務局長 佐藤 孝治

受賞者コメント

私たちエクセラン高校の環境科学コースでは「自然環境」「身近な生活」「放射線」の3つの柱で「環境問題」を見つめ、自分たちができる事を実践してきました。共通しているのは「持続可能な社会を作っていくために低炭素な生活を実現していく」ということです。

ファイナルでは全国から集まった企業の方や市民の方の活動を知ることができて、環境に向かう情熱を感じました。私は4月から専門学校に進学して研究としての活動は続きませんが、物事の見方や考えたことを今後の生き方に生かして、地域に根付いたかっこいい消費者生活者になっていこうと思いました。

エクセラン高等学校 3年 阿南 智也

笑顔で広がるエコの芽～エコキッズの環境 e-de(い-で) 隊

大平山友遊エコクラブ・やまなみこどもエコクラブ

〒 874-0841 大分県別府市竹の内 10 組

☎ 0977-75-7999



自然観察会や地域のゴミ拾い、手作り石鹸づくり、廃油でのろうそく作り、アースディでの展示や廃材ワークショップなど、自然を調べ、川を守る活動や環境に優しい町づくりに協力をしています。活動をまとめた壁新聞や水辺の観察会で作ったオリジナル下敷きは啓発に利用しています。また、施設の慰問や花植え、キャンドルナイトなどでの地域との交流は、豊かにのびのびと生活できる福祉とエコの芽を広げています。



審査コメント

タイトルの「笑顔で広がるエコの芽」をまさに実践する活動です。毎月のように企画されたエコ活動は、水辺の調査や花植え、キャンドルナイトなど3才～6年生と幅広い子どもたちが参加できる活動が中心です。

活動の背後には、ご指導されている大人の知恵と優しさがみとれます。花植えには給食の残飯を肥料化して使用しています。水辺の観察会では、補助事業を活用し調査結果を下敷きにして配布することで、啓発活動につなげています。また、キャンドルナイトでは、知的障害や高齢者施設等も協力して地域の交流の一翼を担っています。

子どもたちは、活動に参加することで環境とあわせ社会との関わりも体験できる素敵な機会になっています。この活動は子どもの笑顔を生み出し、周りの大人たちの思いに支えられ、活動の輪が広がっています。このすばらしい取り組みを応援させていただきます。

株式会社タカラトミー 社長室 社会活動推進課 課長 高林 慎享

受賞者コメント

キャンドルナイトの開催までには、キャンドルづくり(廃油や容器の回収)やランタンづくり(ペットボトルの容器や牛乳パック、ガムテープの芯などを利用)をします。材料の調達や製作までの準備を子どもたちが行います。また、今年は高齢者や障がい者施設との共同開催を企画しました。午前の部と午後の部と二部構成にし、ランタンづくりや環境カルタ取り会、施設交流など多くの方が参加できるように工夫しました。また、別府市で進められている湯けむり発電やバイナリー発電を取材しまとめた壁新聞の活動は、東京で開催されるこどもエコクラブ全国大会で、他県の皆さんに紹介し、交流をしようと思っています。

荒れた竹林や田畑の利活用による地域活性化事業

NPO 法人いきいき安心おおいた

〒870-1141 大分県大分市大字下宗方 286-1

<http://ikiiki-oita.lar.jp>

過疎化が進んでいる集落周辺では、山竹林および田畑が荒れ、里地里山の保全が難しくなっています。そうした地域に地域活性化を願い、活動をしたい人たちがいます。弊NPOは、この願いを受け止め、放置竹林整備と廃木材利活用、さらに耕作放棄地利活用の米作りを、地域の人的資源（活動したい人たち）も活用し、活力のある地域を再生する取り組みをしています。



審査コメント

「NPO法人いきいき安心おおいた」は、特に九州や四国において深刻な放置竹林／竹害という社会課題を解決するため、さまざまなユニークな活動に取り組み、地域活性化につなげるとともに、竹をエネルギーに変えることで低炭素化の取り組みにも優れた実績を上げられました。

さらには、地域の大学などと連携し、セルロースナノファイバーや燃料電池など最先端のテクノロジーも取り入れられたのは、出色です。このほかシイタケ栽培や肥料づくりなど、そのアイデアの豊富さには驚かされました。

こうした様々なアイデアを一つのストーリーに紡ぎ、全国に発信していかれる熱意と努力を十分に感じました。この点において、オルタナから「ストーリー賞」を進呈させて頂くことになりました。今後とも、地域での「横の連携」を活かして、地域の農業を活性化する仕組みを確立していかれることを期待しています。

株式会社オルタナ 編集長 森 摂

受賞者コメント

全国から、温暖化防止という地球規模の課題に取り組む団体が、一堂に会して賞を競う「低炭素杯」に出場できたことに感動しています。私たちは、「自分の住む地域を住みやすくするために、できることをやろう！」と、6年前にNPOを立ち上げたばかりですが、会員のやる気と智恵が、このような幸運を得たのだと互いを評価し、自信をもつことができました。

また、「オルタナ最優秀ストーリー賞」を受賞できましたから、これから、私たちの取り組みが、ソーシャル・イノベーション・マガジン「オルタナ」を通して、全国発信されるので、大変嬉しく思います。

エコキーパー倍増作戦

壬生北小学校 こどもエコクラブ

〒 321-0207 栃木県下都賀郡壬生町北小林 190

☎ 0282-86-0064 <http://www.mibu.ed.jp/esmibukita/>



これまで児童自身が学んできた環境問題やエコ活動の意義、楽しさを、多くの人に伝えるための活動です。校内の活動はもとより、町主催の「健康福祉まつり」、地域に伝えるための「PTAバザー」で自分達の活動を伝えるためのブースを出し、エコ活動を体験してもらうことで、環境を守る仲間を増やす取り組みです。



審査コメント

壬生北小学校こどもエコクラブによる「エコキーパー倍増作戦」は、低炭素社会に向けた実践活動に留まらず、その意義や楽しさを多くの人に伝え、賛同者を増やそうとしている点で、高く評価させて頂きました。活動内容もさることながら、低炭素杯2017での生徒二人による発表は小学生とは思えない立派な発表で、とても素晴らしいものでした。地球温暖化問題は関心の高い人だけでなく、多くの国民の参加が不可欠ですので、エコキーパーが今後、さらに増えていくことを期待しています。

NPO法人気象キャスターネットワーク 事務局長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

実際に低炭素杯で発表をして、すごく緊張して言葉につまってしまったところもありましたが、学校の代表として、自分たちのやってきたエコ活動をより多くの人たちに知ってもらえたので良かったです。

また、他の団体の発表を聞いて、実際やってみたいと思う活動がたくさんありました。僕たちはもうすぐ小学校を卒業しますが、これから先も地球温暖化を少しでも食い止められるよう、続けて活動して行けたらなと考えています。低炭素杯に参加できてよかったです。

海の森を未来に届けるプロジェクト

一般社団法人海っ子の森

〒514-2304 三重県津市安濃町太田 1603-29

☎ 059-221-0909 <http://umikko.jp>アンバサダー特別賞
アンバサダー
サイン入り
グッズ

藻場（海藻の森）が持つ豊かな海の生物多様性の役割に関して子供たちだけではなく広い年齢層に教育を行っています。活動は1月に水産研究所で海藻苗を種付けし、4月には実際に大きくなった海藻に触れ海藻の植林活動を行い、7月には海藻の成長をシュノーケリングで観察し、秋には収穫祭といった海の恩恵による交流会を開催しています。海っ子の森は、海のビオトープ作りにより一年を通して体験するプログラムを行っています。



審査コメント

海と森が全部繋がっていて、そしてわかめを育てられて、海を大切にされている想い、また全部が繋がっているということを強く学ばせていただいて、とても嬉しく思いました。

そして、実はですね、海っ子の森の皆様のパンフレットを見せていただいたんですけど、本当に選ばせていただいた後だったんですけど、ギョギョツ、あれっ、あれっ、なんか、これ、おわせひのきと書かれているこの写真に魚の絵が描いてあるんですけど、これ、以前ワタクシが描いた絵なんです。本当にびっくりして、本当に数分前に気が付いたんですけど、ギョギョツと。実は、東京のですね、とってもおいしいお魚料理のお店でクエをいただいて、あまりにも美味しくてウマ〜イ!とですね、クエちゃんを描いたこの絵が、写真で…ほんとね、びっくりしまして。やっぱり、繋がってるんですね〜。とても嬉しく存じます。

低炭素杯2017アンバサダー さかなクン

受賞者コメント

12年前の会の発足時から継続している「未来に海の鎮守の森を届けるプロジェクト」の一部を紹介しました。初めての低炭素杯への挑戦でファイナリストに選出され、貴重な、そして愉快的な体験をする事ができました。大変感謝しております。海を豊かに守ることが低炭素な生活に繋がるという事を伝え、会場の皆さんに海への関心を高めてもらおうとの想いを4分間の発表に込め、大漁旗で作った半被に身を包み臨みました。こんな私達が、さかなクンからアンバサダー特別賞を頂けたことは、大変な衝撃でギョざいました。

新梅田シティ「新・里山」「希望の壁」緑のオアシスで低炭素実現

積水ハウス株式会社

〒579-8065 大阪府大阪市北区大淀中 1-1-88 梅田スカイビルタワーイースト 10F

☎ 06-6400-3374 <http://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/biodiversity/objective1/7/index.htm>
<http://www.sekisuihouse.co.jp/exterior/ext02.html>

大阪の中心梅田「新梅田シティ」内、「新・里山」は、2006年7月にオープン。日本の原風景「里山」をお手本とした庭づくり、積水ハウス株の「5本の樹」計画に基き、地域の在来種を中心に雑木林や田畑を設け、公開空地として一般公開。安藤忠雄氏発案当社施工の「希望の壁」とともに、ビルのオフィスワーカー、地元の幼稚園、小学校、近隣の方々と一緒に、都会の中で自然体験ができる場として10年間愛され続けています。



審査コメント

『新梅田シティ「新・里山」「希望の壁」緑のオアシスで低炭素実現』の取り組みは、雑木材、棚田、水田、花と蝶の庭、菜園ガーデン、ピオトープ、水辺、鎮守の森等7エリアからなる「新・里山」と巨大な壁面緑化の「希望の壁」が大阪の中心部につくられ、大都市にしながら生物多様性の重要性が自然と学べるもので、多くの観光客も訪れ、この種のものとしては圧倒的なスケール感である。

ハイタカ、ミゾコイ等絶滅危惧種の珍しい野鳥が飛来したことも象徴されるように「新・里山」は生態系保全という重要なミッションを果たした。ビジネスワーカーに対し、農作物ボランティアを呼びかけたり生物多様性懇談会を開催する等ソフト面も充実していて極めて高く評価できる。

審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

このたびは、素晴らしい賞を受賞させて頂き、感謝申し上げます。「新・里山」は「5本の樹」計画にもとづき、日本の原風景をお手本に田んぼや、畑、水辺など四季折々の風景を楽しんで頂けます。

また、地元をはじめ、国内・外の皆様に愛されています。緑の緑化壁「希望の壁」とともに、エコファースト企業として、緑化事業を通じて、低炭素な未来を子どもたちへ残せるよう、活動を継続し続けたいと思います。ありがとうございました。

自然にも自分にも優しいリビエラエコシステムで低炭素化を推進

株式会社リビエラ

〒030-0852 青森県青森市大野山下 48-3

☎ 017-729-1781 <http://www.aomori-riviera.co.jp>

雪国における悩みである冬の雪対策として、当社は、地下水熱利用による低温融雪設備を提供しています。1本の井戸で揚水と還元を行い、揚水した地下水は熱を取り出された後、空気に触れることなく還元されるため水質汚染の可能性も低いです。また融雪の熱源は地下水の熱だけなので、ポンプの動力とシステム制御にしか電力は使いません。そのためランニングコストを抑えながらも化石燃料使用は0となり、CO₂排出量削減に貢献しています。



審査コメント

「自然にも自分にも優しいリビエラエコシステム」の取り組みは、昨今、CO₂削減のソリューションとして大変注目されている地下水熱を活用したものだが、冷・暖房や融雪を必要温度に応じて最適な温度でカスケード利用するシステムで、CO₂削減効果のある地下水熱利用をさらに効果を高めるものとして極めて高く評価できる。

また、地下水規制の厳しいエリアでの新たな井戸に挿入できる熱交換器も開発するなど、今後の様々な地下水熱活用の道を拓くものとして大いに期待できる。

審査委員長 金谷 年展

受賞者コメント

今回ファイナリストとして参加させていただき、各地域の学生や団体が一生懸命低炭素化に取り組んでいる様子がかがわれ、また、このような賞をいただけたことを大変うれしく思います。学生の域を超えた素晴らしい研究や、汚泥利用によるコージェネなど、技術大国日本の創意工夫を目のあたりにし、感動、感銘を覚えました。弊社は石油依存の高い雪国ですが、低炭素化の意義を地域にPRしながら邁進したいと考えております。